



中国地方を大平よしのぶ元衆院議員が駆けめぐりながら、各地の真ん中世代(30～50代)のみなさんと語りあい、つながりあう「希望届ける春風キャラバン」。女性、青年、医療・介護現場、教員など分野ごとのつどい、親子連れで賑わう公園や子どもの迎え時間にあわせ保育園前に出かけての「ママパパ願い聞かせてアンケート」対話、農業青年との懇談、たくさんの方が行き交うターミナル駅で机やイスを出し、BGMもかけながらラジオの公開収録ばりのトークライブなど多彩なとりくみがおこなわれ、600人を超える方たちと対話しました。

「自分の給料が娘のバイト代と同じか少ないこともある」(松江市、保育士)などケアワーカーの深刻な実態や「制服代6万円、指定のカバンや靴やジャージ、部活道具に

自転車と中学の入学準備の出費が本当に大変だった」(防府市、40代)など子育ての悩みがたくさん寄せられました。

「自分は自民党員だが今の自民党はダメ。もう辞めたい」(岡山市南区の公園対話)——自民党への声とともに、「共産党の平和提言に感動した」(岡山市東区、30代)、「資本主義を乗り越え労働時間は短縮できるという話が印象に残った。学生も夢を諦めなくていい」(松江市、大学生)など日本共産党の改革ビジョンが大きな希望となって広がりました。

とりくみの中で30代・40代のご夫婦が入党を決意され(出雲市)、しんぶん赤旗の購読や大平LINE公式も24人が登録されるなど、真ん中世代との新たな結びつきも。集めた声をまとめ6月には政府交渉も行う予定です。

呉の軍事拠点化許すな!

4月21日、防衛省による呉市の日本製鉄跡地130ヘクタール一括購入で「多機能な複合防衛拠点」をつくるという計画に反対する市民集会在開催されました。日本共産党も井上さとし参院議員・党参院国対委員長を先頭に大平よしのぶ元衆院議員も参加し、市民とともに声をあげました。

GWは魚釣りでリフレッシュ

(広島県江田島市)

政治変え憲法が生きる社会に!

5月2日、憲法記念日を前に大平よしのぶ元衆院議員は、藤井とし子県議、中原つよし広島1区予定候補とともに、広島市で街頭宣伝。戦前の日本社会と日本共産党のたたかいから、国民の多くは「改憲急ぐ必要なし」と思っていること、岸田政権の大軍拡はじめ憲法違反の数々の告発、自民党政治を変えて憲法を守り生かした社会に、とうったえました。